

スル者アリ其事固ヨリ思ハヘシト雖モ亦我ニ
國法アリ風俗アリ未タ遠ニ之ヲ變スル能ワス
故ニ姑ラク居留ノ地所ヲ定メ旅行ノ里程ヲ限
リ外人ノ害ヲ被ルヲ防クノミナラス乃チ邦人
ノ此弊ヲ生ルヲ慮リテ之ヲ愛護スル所以ナリ
今ヤ刑政日ニ就リ教化月ニ將ミ亦昔日ノ習俗
ニ非スト雖モ交際上ノ大體ヨリ之ヲ見ル猶未
タ期程ノ廢ス可テサル者アリ請フ試ミ之ヲ論
セシ外人ノ本邦ニ在リ罪ヲ犯ス者我カ法律ヲ
以テ之ヲ審判スルヲ得ス公法ニ曰自主之國審

辨犯法之案可自秉其權不問於他國又曰審罰之權
可及四等之案凡在疆内犯地方律法之事無論犯
之者何人云々是ニ由テ之ヲ觀ル本邦未タ自主
ノ權利ヲ以テ各國ト平行スル能ワス若シ外人
邦内ヲ横行シ邦人ト事ヲ生スルアリ邦人ハ我
ノ憲法ニ照シテ之ヲ免ルスナク外人ハ皆各國
領事ノ裁決ニ依ル彼若シ枉テ寛ニ處スル時ハ
則内外其科ヲ同フスル能ワスシテ遂ニ邦人ノ
怒ヲ來タシ他日將ニ不測ノ弊害ヲ生セルトス
是未タ期程ヲ廢スヘカテサルノ一ナリ開港場

ハ皆邏卒ヲ設ケ内外人民ヲ安寧ヲ保護ス我ヨ
リ之ヲ見ル其缺ル所ナキニ似タリ而英佛別ニ
之ヲ警備ス我其兵衛ヲ徹スルヲ促スト豈モ彼
肯セサル者必ス兵力ヲ藉リテ我ヲ凌蔑セシテ
欲スルヤ明ラケシ公法ニ曰諸國自有之原權英
要於自護今ヤ各國ヲシテ我ハ閩港場ヲ警備セ
シムル者固ヨリ我ハ自護ノ原權ニ於テ足ラサ
ル所アリ所謂強者驕敵弱者ヲシテ其權ヲ退讓
セシムル者アリ果シテ我ハ保護盡サバハル者ア
ル横濱ノ如キモ猶未タ兵備ヲ徹スル能ハスト

為サハ則他ノ府縣未タ曾テ外入ヲ來往セザル
地方ニ至テハ彼益疑危ヲ懷カサルヲ得又既ニ
一般ノ旅行ヲ許スノ日ニ當テ彼或ハ各所ニ兵
衛ヲ設ケ其行旅ヲ保護スルノ事ヲ主張スヘシ
而我之ヲ阻ムノ權力無キヲ恐ル苟モ此ノ如シ
ハ彼ノ兵備我邦内ニ遍ラシテ遂ニ我ハ鎮臺ト
併ニ立ントス是未タ期程ヲ廢スハカラサルノ
ニナリ保護稅ナル者ハ民產ヲ勸獎シテ利用厚
生ノ本ヲ立テ貿易ヲ隆盛シテ富國強兵ノ實ヲ
致ス所以ニシテ歐米諸國ノ埔頭皆之ヒナキハ

ナレ而我未タ之ヲ賦收スル能ハス我之ヲ求メ
 テ彼ノ承諾セサル者未タ我ヲ認テ平行ノ國ト
 為ササル所以ナリ是未タ期程ヲ廢スヘカラサ
 ルノミナリ交際ノ事固ヨリ各國平行ノ權利ヲ
 得スレテ妄リニ其事ヲ行ヒテ欲セハ當ニ我ニ
 益ナキノミナラス却テ彼ノ箝制スル所ト為ル
 事免レス今^臣ノ議スル所律法警備租税ノ三ノ
 者ハ各國平行ノ權利ヲ得サルノ最ニ著明ナル
 者ニシテ自ラ治メ自ラ至タルノ道ニ缺ル所アリ
 苟モ其未タ問ハスレテ枝葉ヲ改ムル者所謂其

苗ノ長セサルヲ憫ヒテ之ヲ振ク者ニ庶幾ラレ
 トス故ニ^臣謂テク一般旅行ノ事決シテ今日ニ
 行クヘカラスト且ツ聞ク嚮ニ公使等之ヲ請求
 シテ曰若シ之ヲ許サバ馬關ノ償金ヲ領取セス
 ト然レトモ朝廷其許スヘキノ時ニ非ルヲ以
 テ遂ニ之ヲ作ケ償金ハ既ニ其三分ノ二ヲ交付
 セリト朝廷既ニ其不可ナルヲ知リ又更ニ之
 ヲ議セシムル者^臣ノ固ヨリ解セサル所ナリ伏
 テ請フ朝廷先ツ内政ヲ修メ外交ヲ慎ミ各國
 平行ノ權利ヲ取メ自ラ治メ自ラ主タルノ道ヲ

全フスルヲ得然ル後期程ノ約ヲ更正スル未タ
晚ト為サハルナリ抑各國ノ條約ヲ改正スルノ
議アリ既ニ其期ヲ愆キラ猶未タ決セス宜シク
此時ニ及ヒ此機ニ乘シ各國公使ト商議シ我カ
國權ヲシテ歐米諸國ト軒輊勿ラシメシヲ要ス
ヘシ公法ニ曰自主之國無論其國勢大小皆平行
也若シ公使等之ヲ阻ミ獨リ彼レノ欲スル所ヲ
求メハ則所謂強ヲ恃ミ人ニ通リ約ヲ立ル者ニ
シテ是公法ノ必ス容レサル所ナリ願クハ
朝廷深ク臣ノ陳說スル所ノ者ヲ察シ幸ニ之ヲ
鑒臨セヨ其規則條目ノ如キモ亦議スル所ナシ
トセス宜シク行フハキノ日ニ當テ更ニ上奏ス
ル所アラントス臣清陰謹テ議ス

明治七年六月十七日

開拓次官黒田清陰

舟地旅行規則譯文

開
拓
使

翻譯文章稿

公使館領事館之官員并日本政府公用人々ノ外
左ノ規則ニ從ヒ渡サレシ免狀ヲ以テ内地旅行
ヲ許スヘシ

第一條

水夫又ハ家業不分明ナル者重罪一度輕罪兩度
犯シ裁判ヲ受シ者又ハ其一年前ヨリ内此規則
ヲ破リ裁判ヲ受シモノ又ハ現今罪狀吟味中ノ
人々ニ與フヘカラス

第二條

内地ニ於テ貿易不都合ノ丁

翻譯文草稿

公使館領事館之官負并日本政
左ノ規則ニ從ヒ渡サレシ免狀
ヲ許スヘシ

第一條

水夫又ハ家業不分明ナル者重
犯シ裁判ヲ受シ者又ハ其一年
ヲ破リ裁判ヲ受シモノ又ハ現
人々ニ與フヘカラス

第二條

内地ヲ旅行センコトヲ願フ者ハ其公使又ハ領事
ヲ經テ其居住ノ地方官廳ヘ願出ヘシ右第一條
ニ觸レサルモノナレハ内地旅行ノ免狀ヲ渡ス
ヘシ此免狀ハ本人ニ限り他人ニ貸シ又ハ讓ル
ヘカラス且此免狀ニハ國柄居所姓名容貌年齡
并同道ノ家族召仕等ノ容貌書ヲ詳ニ記入スヘ
シ

第三條

右免狀ヲ願出ル時本人其公使又ハ領事ノ手ニ
洋銀二百枚ノ証文ヲ差出スヘシ是レハ免狀日

本官廳ヘ差戻セシ上十日ノ後ニ返却スヘシ屯内
地旅行中請求又ハ行跡ニ付テ訴訟起リタル
時ハ其請求又ハ訴訟其領事ニテ吟味裁斷スル
マテ右証文ヲ留置ヘシ

第四條

右免狀ハ本人旅行ノ行先并通行ノ國々ヲ記
載シ且其期限ヲ記載スヘシ其期限ハ三ヶ月ニ
過キスト雖モ公使又ハ領事ノ手ヲ經テ別段願
出時ハ日本官廳ヨリ改テ免狀ヲ渡スヘシ本人
歸着ノ上公使又ハ領事ノ手ヲ經テ日本官廳ヘ

同道ノ家族召仕等モ外國
人ナレハ右ノ手續ヲキ
得ス

其領事ニテ吟味裁判ストアレモ第八條
ニハ地方官ニテ裁決シ終ニ司法省ニ
控訴スルヲニ矛盾ス

疾病等ニテ止ムヲ得サル事故アル
ニ非レハ三月ヨリ後、願繼免ル
可ラサル歟

内地ヲ旅行センコトヲ願フ者
ヲ經テ其居住ノ地方官廳へ
ニ觸レサルモノナレハ内地
へシ此免狀ハ本人ニ限り他
へカラス且此免狀ニハ國柄
并同道ノ家族召仕等ノ容貌
シ

第三條

右免狀ヲ願出ル時本人其公
洋銀二百枚ノ証文ヲ差出ス

本官廳へ差戻セシ上十日ノ
地旅行中請求又ハ行跡ニ
時ハ其請求又ハ訴訟其領事
マテ右証文ヲ留置ヘシ

第四條

右免狀ハ本人旅行ノ行先キ
載シ且其期限ヲ記載スヘシ、
過キスト、雖モ公使又ハ領事
出時ハ日本官廳ヨリ改テ免
歸着ノ上公使又ハ領事ノ手

免状差戻スヘシ若シ本人ノ過失又ハ無據ニア
ラサル事故有テ期限迄ニ免状返却セザル者ハ
其等間ノ罰金トシテ一日毎ニ十弗証文高ノ内
ヨリ日本官廳へ取立ヘシ尤道中ニテ輿攢故障
此レアリ止ムヲ得ス滯留スル時ハ其地方官^長
長等ヨリ其滯留ノ次第ヲ証スル書面ヲ受取免
状ト共ニ差出スヘシ

第五條

規則通り貰受タル免状ナク又ハ既ニ期限尽ク
ル免状ヲ以テ條約規程外内地通行スル外國人

アリ唯彼
其多少ノ
ハハス

ル、下難シ
遵守スル亦難シ

ハ日本官廳ニテエヒテ若補其領事ニテ決罪ノ
上洋銀二百弗以下ノ罰金或ハ三十日以下ノ入
牢其品ニヨリ申付ケヘシ尤此規則ニヨリ可取
立罰金ハ日本政府ハ渡スヘシ

第六條

外國人内地旅行中日本語ニ通スル外國人ノ外
ハ彼我ノ不都合生セサルヲ通辭入ヲ若連レ
一キノ理アリ

第七條

内地ノ旅行スル外國人ハ日本政府現今將來内

免状差戻スヘシ
ラサル事故有ラ期
其等間ノ罰金トシ
ヨリ日本官廳ヘ
此レアリ止ムヲ得
長等ヨリ其滞留ノ
状ト共ニ差出ヌヘ
第五條
規則通り貰受タル
免状ヲ以テ條約

罰金入牢ニ以下ノ語アリ唯彼
ノ裁判隨意ニ出テ、其多少ノ
數之ヲ我ニテ制スルヲ能ハス

不都合ヲ生セル為ノ通辨ヲ連ル、ヲ難シ
通辨ヲケレハ後ノ七八九條ヲ遵守スル亦難シ

第六條
外國人内地旅行
ハ彼我ノ不都合
一キノ理アリ
第七條
内地ヲ旅行スル

國人ノヲ布達スル驛迎規則及地方慣習方ニ
從テ自身又ハ荷物運漕ノヲ人夫或ハ牛馬車
船等雇入ニ付日本人同様ノ自由ヲ得ヘシ且渡
橋渡船ノ税ニ於ルモ亦高低アルハカラス

第八條

右第七條ニ掲ル雜費及ヒ飲食宿料等不拂カ又
ハ右等ノ請求ニ付テ可許第有之節ハ其地ニ在
ル日本官吏共請求スハ訴ヲ聽相當ト思フ金高
ヲ申述スニテ本人ヨリ其金ヲ拂フヘシ若シ
不拂時ハ日本官吏ニテ捕押ユヘシ然レトモ其

地ノ官吏申述ル金高ニ付異議アルトキハ承諾
セサル趣ヲ斷リ置テ姑ク拂置クヘシ然ル時ハ
官吏ヨリ請求并ニ拂ハシムル金高ヲ委細書ヲ
本人ニ與フヘシ本人ハ後日此ヲ以テ日本司法
裁判所ヘ訴フヘシ

第九條

日本ノ各地方ニテ現今將來設立ノ規則ハ各地
實際ノ形勢ニ從ヒ差異アルカ故ニ内地ニ赴ク
外國人ハ每事注意シテ能其地方ノ規則モ地方
官吏ニ問ヒ糾シ是ヲ遵守スヘシ若シ之ヲ遵守

諸縣ニ於テ此用意甚ク難シ

國人ノタリ布
從ニ自身又ハ
船等雇入ニ付
橋渡船ノ税ニ

第八條

右第七條ニ揭
ハ右等ノ請求
ハ日本官吏其
ヲ申述トシ
不拂時ハ日本

地ノ官吏申述
セサル趣ヲ断

官吏ヨリ請求
本人ニ與フヘ
裁判所ハ訴テ

第九條

日本ノ各地方
實際ノ形勢ニ
外國人ハ每事
官吏ニ問ヒ知

ニ各地方
ルヲ得ス

究屈トノミ
以テ後日ノ

スルヲ肯セサルカ或ハ私罪ヲ犯シ又ハ亂暴狼
藉カマシキ所業ヲ勸クトキハ日本官吏捕縛ス
ヘシ

第十條

此規則ニ隨ヒ日本官吏捕縛シタル外國人ハ早
速最寄ノ開港場ニ連行其領事ノ手ニ引渡し罪
狀ヲ詳陳スヘシ然レモ捕縛ノ時及ヒ日本官吏
ノ手ニアル間都テ無法ノ取扱又ハ過分ノ究屈
ヲ受ケシムヘカラス

第十一條

總テ前條ノ罪ヲ犯セル外國人ヲ捕押シ又ハ開
港場へ護送スル手數ヨリ生マシ入費ハ證據金
ノ中ヨリ日本政府へ償ハシムヘシ

遵守スルヲ肯スルヨウニスルニハ各地方
ニテ説得ノ手立ヲ設サルヲ得ス

無法ノ取扱又ハ過分ノ究屈トノミ
ニテ彼我ノ法異ナルヲ以テ後日ノ
論ヲ免レヌ

スルヲ肯セサルカ或ハ私
籍カマシキ所業ヲ勸クト
ヘシ

第十條

此規則ニ隨ヒ日本官吏捕
逮最寄ノ開港場ニ進行其
狀ヲ詳陳スヘシ然レモ捕
ノ手ニアル間都テ無法ノ
ヲ受ケシムヘカラス

第十一條

總テ前條ノ罪ヲ犯セルハ
港場ヘ護送スル手數ヨ
ノ中ヨリ日本政府ヘ償

清隆親王再將上言大臣總之基清
向罪ノ事ノ然キ其利害得失ヲ論シ
詳ニ之ヲ上陳アリ頃日兩理大臣大
久保利通ヲ清國ニ差遣シ其爲務
ヲ解カレム其成否未タ之ヲ逆睹スル
能ハス而シテ事ノ既ニ其端ヲ肉ク中途
ニシテ止ム可ラス若シ我ノ修理ヲ盡シ
而シテ彼爲肯ンセス却テ彼ヲ興テ
廢クコトアレハ其憂ニ應スルナキヲ得ス